ナイトセミナー

身のまわり動作、生活関連動作における基本動作を考える
ー　車を運転する　ー

関西医療大学　保健医療学部　臨床理学療法学教室
高崎恭輔　鈴木俊明
柏友会楠葉病院　リハビリテーション科
山口剛司

我々理学療法士は、問診において患者さんが困っている「身のまわり動作」、「生活関連動作」が何であるかを良く理解し、その動作の実用性を獲得することを目的としてリハビリテーションを展開する。トップダウン評価による理学療法では、患者さんの need となる動作を観察・分析して機能障害の把握につなげていく。その際、「身のまわり動作」「生活関連動作」をリハビリテーション室において再現することは困難な場合が多く、それらの動作を評価する場合はその動作を構成する「基本動作」のなかで問題となるものを予測し観察・分析を行う。

昨年の本セミナーにおいて我々は「生活関連動作」のなかで「車の運転動作」を取り上げ、車の運転中の体幹筋の筋活動について参加者の皆さんとともに検討した。その中で、車を運転する際に必要となる体幹筋の筋活動をリハビリテーション室で再現するための方法として「動的な座位動作」を指標とすることを提示した。「動的な座位動作」は「基本動作の動的場面」として「広義の基本動作」と捉えることができ、「車の運転動作」を構成する基本動作の一要素と考えられる。しかしながら「車の運転動作」のなかには検討するに値する特徴的な基本動作の要素が他にも数多くみられるため、本年のセミナーにおいてもこの動作を構成する基本動作についてさらに認識を深めていきたいと考えている。

今回着目した基本動作は「座位でペダルを踏み込む動作」である。この動作も「車を運転する動作」において「基本動作に四肢の運動を伴った動作」として「広義の基本動作」に含まれる。今回の検討で我々は、車内に筋電計を持ち込み運転中のドライバーの体幹筋の筋電図をモニタリングした。その際見られた特徴の一つがブレーキング時の右内腹斜筋の著明な筋活動であった。特に急ブレーキ時にみられる活動は、リハビリテーション室における座位での体重移動では再現することが困難なほどの活動量であった。このことから「ペダルを踏み込む」という動作においてこの筋活動は不可欠な要素であると考え、リハビリテーション室において再現可能な基本動作に置き換えるための検討を行ったので本セミナーにおいてご報告したいと考えている。また内腹斜筋は賦活するために様々な工夫を要する筋だと考えられるが、今回の検討の中で内腹斜筋を他の体幹筋と分離して単独で活動させられる可能性を持つ運動を見出すことができたのであわせてご紹介したい。